2013 年 4 月 24 日

各 位

会 社 名　　株式会社 資 生 堂
代表者名　代表取締役会長 兼 執行役員社長
前田 新造
（コード番号 4911 東証第 1 部）
問合せ先　　IR 部長　高倉 宏文
（TEL. 03-3572-5111）

特別損失の発生および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2013 年 3 月期第 4 四半期において特別損失を計上する見込みですので、その概要をお知らせするとともに、2013 年 1 月 31 日に公表した通期連結業績予想の修正についてお知らせいたします。

1. 特別損失の内容

(1) 特別損失の計上見込み額

Bare Escentuals, Inc.（以下、ベアエッセンシャル社） に係る無形固定資産（のれん）の減損損失として 28,600 百万円

(2) 特別損失の発生およびその内容

当社は、2010 年 3 月に買収を完了し、当社の子会社とした米国の化粧品会社ベアエッセンシャル社について、買収後、グループシナジーの発揮に向け、米州における資生堂の生産・物流拠点およびバックオフィスとの機能統合や強化、米国外における資生堂の販売インフラの活用、研究開発や商品開発分野での取り組み等を工程どおり進めてきました。その結果、シナジー効果も徐々に表れ、売上も伸長していましたが、期待通りとはなっていない状況であったため、ベアエッセンシャル社の売上の大半を占める米国において、市場規模の大きいリテール事業を育成すべく、2011 年度より、テレビ宣伝等のメディア投資を実施しました。しかし、認知度や関心は高まったものの、リテール事業の拡大に想定以上の時間を要していることなどから売上は計画を下回って推移し、特に直近数カ月間においては乖離幅が大きくなっています。

このような状況を総合的に勘案し、4 月に入ってからではありますが、長期計画を見直して減損テストを再度実施した結果、2012 年度に特別損失が発生することとなったものです。

なお、ベアエッセンシャル社は、今回の長期計画の見直しにより、2013 年度に、不採算直営店舗の閉鎖等、構造改革を断行するとともに、一旦、マーケティング投資を拡大し、2014 年度以降の成長への基盤を整えます。成長に向けては、「QVC」や「インフォマーシャル」といったダイレクト販売事業を強化することに加え、リテール事業では、これまでのメディア投資から店頭マーケティングへ投資をシフトさせ、まずは既存店舗の強化に最優先に取り組みます。これらの取り組みにより、ベアエッセンシャル社の本来の強みである「ダイレクト販売とリテール販売の相乗効果」を生み出す「独自の強いビジネスモデル」に磨きをかけ、グローバルメガブランドとして、持続的な売上成長を果たしていきます。

2. 2013 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純損益	1 株当たり当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回表予想（A）	680,000	24,500	25,500	10,500	26.38
今回発表予想（B）	677,500	26,000	28,000	△14,700	△36.93
増減額（B-A）	△2,500	1,500	2,500	△25,200	
増減率（%）	△0.4%	6.1%	9.8%	―	
（ご参考）前期実績（2012 年 3 月期）	682,385	39,135	39,442	14,515	36.47

３．修正の理由

連結売上高は、主に国内化粧品事業において売上が計画を下回ったことから前回予想より25億円減少する見込みです。連結営業利益および連結経常利益は、費用の効率化を積極的に進めたことから、それぞれ 15億円、25億円増となる見込みです。

また、連結当期純損益につきましては、従来予想で見込んでいた事業構造改革関連の特別損失に加え、1.に記載のとおり減損損失による特別損失286億円を計上することから、2013年1月31日に開示した前回予想を252億円下回り、147億円の純損失となる見込みです。

４．配当予想

2013 年 3 月期においてベアエッセンシャル社に係る減損損失の発生により特別損失を計上し、当期純損益が赤字となる見込みとなりましたが、当該特別損失はキャッシュフローへの影響がないことから、2013年3月期の期末配当の予想は変更せず、当初の予定通り1株当たり 25 円とし、中間配当 25 円と合わせて年間では 50 円を実施する予定です。

（注）上記の業績予想は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以　上